

郡報

第拾四號

額

に俟

個人

15

目次

一、社會	一
一、勞働本位	六
一、東西兒童教育の比較	一三
一、七福神と倫理的表彰	一五
一、蠶種の風穴貯藏を勵行せよ	一八
一、製乳事業は畜牛界の要素	二一
一、馬匹取扱心得	二六
一、森林火災と其警防	三一
一、地方改良實例	三五
一、農業の副業として柿の加工法	四二
一、本年度の米作豫想	四六
一、勤儉貯蓄團體	五〇
一、縣村稅納稅歩合一覽	五一
一、利根郡興農會品評會	五三
一、初冬の感	五五
一、座右銘	五七
一、彙報	五八

郡報 第十四號

●社會

利根郡長 坂本 森 一

前回に於て社會と云ふものゝ大体の意味と其發生原因の主要なるものに就てざつと申述べました即ち吾人の茲に所謂社會とは人類の集團でありまして其根底を形造るものは個人々類であるが然しながら社會は個人々類そのもので無くして別に社會と云ふ存在を有するものである又社會の根底は個人々類であるから外のものからして社會が存立するものではないが個人の總計が即ち社會ではなく社會は個人の社會性と謂ふものに依つて形造くらるゝのであると謂ふことを述べました之を約言致しますると社會は個人々類の社會性より形造くられて居るものであります

既に社會の根底が個人々類である以上は社會の研究は社會員たるところの個人々類の研究に俟つ所がなければならぬのであります從て社會を研究する吾人は先づ第一に自身の研究に入り次て他の個人の研究を致す必要があるので社界研究と謂ふものは仲々困難な仕事であります然しながら之を大觀して

一種の仮定と謂ふものを設けて研究するのが研究上の一手段とされてありますから今此手段に従て私は個人々類の性情の上に於て一の仮定を設けましたが今度は又第二の仮定を設けて行きたいと思ふのであります夫れは即ち個人々類の個人性と謂ふことであります人類の個人性と謂ふのは何人も先づ第一に我身を愛し我身の發達に最も多く顧慮すると謂ふ傾向であります私は正直に隠し立てないところ誰ても自分の身が一番可愛いものであると思ひます早い話が古來聖賢と仰き仁者と尊ぶ人は何れも何等かの形で自身を抑制した人である世人がかゝる人を尊敬するのは個人一般の傾向を凌いで他人の爲し難いことをしたと謂ふところに根底を持つて居るのであらうと思はれる即ち人類には一面に於て社界性と謂ふものがあり他の半面には個人性と云ふものがある此兩性の働き合ひか種々に凝つて社會活動となるのであると云ふことは今日吾々の常識上見逸かすへからざる事實であると斷言したいのであります

そこでも少し個人性といふことに就て述べて見たいと思ひますが個人性とは既に申した通り自分のみの愛といふことでありまして例へば往來を歩くに當つて出來得るならば他人の通行を止めて一人大道を活歩したい景色のよい所があれば他人の庭内でもすん／＼入り込んで之を眺めたい馬車に乗るときには難番は好きないから一人で裕然と腰を掛けたい夫れにしても丸の一人では淋しいから相手か一人や二人はほしい其相手も自分の好きな人がよい又美味い御馳走か自分の思ふだけほしい其他何でも

自分の思ふ様にして見たいこんな考は空想ではあるか我儘な人は大抵一率に持つて居らうかと思はれるよしこんな考は實現することは出來ないにしろ持つて居つて悪いと云へまい又善いともいへない自然だから致方がないと思つて居る然し玆に注意して置かなければならんのは以上の様な考は自分一人でないといふことでありますそこで今假りに皆んなが此考の實行を始めたとしたら如何であらう喧嘩斬り合ひ擲ち合ひが到る所で始まるのは大地に剣を押すより確かで若しそうなつたら迂闊に外出もできらぬものでない即ち初め自分が希望した事とは正反對な有様になつて来るそこで強いものは威張る弱いものは縮み上ると云ふことになつて弱いものは強いものゝ御氣嫌取りに忙かしく強いものは他の強いもののとの競争準備に追はれる之が即ち闇黒世界と云ふので今日迄の人間の歴史がかゝる活劇のあつたことを明かに示して居ります

斯様な有様であつては吾々に取つて誠に迷惑至極のものではあるまいか歴史も亦其時其處の人々が困難したと云ふことを証據立てゝ居る即ちかゝる状態はやがて永續きかして居らるのであります

然らばこの闇黒世界は何に依つて取除かれたかと云ふと取りも直さずそれは個人の社界性と云ふものである闇黒世界ではお互に堪へられないから自分銘銘の慾を少しづつ抑へて一致して多勢の敵となる乱暴ものを追ひのけたのであります此闇黒世界を救ふた大なる力は宗教や道德や乃至種々の社界性の

結晶に外ならのであります即ち自分の慾望を抑へて他に其分け前を能へると云ふことに歸するのであります個人性の極端な發展は個人其ものゝ自滅を招くことが既に明かであり之を救ふには社會性の力に依らなければならぬとしたならば社會性を充分に極力發展せしめたいのである其結果は如何であらう即ち何ても社會の爲め公共の爲めと漠然熱中して只管社界の爲めに努力するの結果一身一家の計をしなかつたら如何であらう例へば我田畑の耕作を止めて月給も報酬も取らずに毎日役場に詣めて居り我家の財産を悉く村の基本財産に提供するとしたならば其人の一家は立行かぬことになるこんな人か一村に一人か二人ならばまだしも一村悉く夫れであつたら其村は潰れる外はない以上述べたことに依つて結論致しますと人間の生活には個人性も社會性も共に必要である此兩性が適當に配合されなければならぬと云ふことになるのであります之は丁度天体の遠心力と求心力との關係と同じことで地球其他の星か太陽の周圍を廻つて四時の運行か出来るのは一方に於て太陽に引付ける力があり他方に之に遠ざからうとする力があるから若し遠心力ばかりならば地球は何處へ行つてしまふか知れず又求心力ばかり働けば地球は太陽にひつ付いて終ふであらう之では地球と云ふものか無くなる理である然らば其適當な按配と云ふのは何を指すのであらう若し個人性と社會性とを對立させて其折衷の適度如何を考へたならば非常に困難なことで即ち程度問題と云ふことになるから人に依つて其目安も違ひ實は歸着する處の無い水掛け論となるかゝる事を考へるのは私は好まない最も好き調和は歸一

である二ツのものか一ツとなることか最上の調和であると考へます即ち社會性の發現か即ち個人性の發現であり個人性の發現か社會性の發現であると云ふことか最も良好な兩性の調合であります佛家の言葉を用ひますと平等即ち差別差別即ち平等又は色即是空空即是色と云ふことになるのて一言以て被へは我れど我身を大きくすると云ふことであります之は困難なことかと云へは勿論やさしいことではない多くの修養練習と云ふものか必要であるか併し不思議なものでもない今日世の中に漸々と多く行はれて居ることそれは共同經營と云ふことであります人世萬事を一切共同經營にすると云ふことは今日の人間ではとても出来まいか併し或特別の事柄を共同經營にすることは出来る否なものに依ては共同經營でなくては成立たぬことかあります芝居などか最も卑近な例で役者は銘々自分の役目を勤める立役もあるし端役もある之に囃方か加はり道具方か加はり幕切りもする者があるそれで芝居と云ふ共同作業が行はれるのて其作業の爲めに關係者は何れも生計を立てゝ居るてはないか斯様な狀態は社會世話の各方面にあること例へば生産組合とか販賣組合とか株式會社とか云ふものは何れも夫れでありますうして面白いことには段々世の中か進んで來て世事辛くなるに従つて共同經營の種類か殖えて來ることあります個人の知識か進んで來て成るべく多く個人性の發展を計る様になるに伴れて共同作業を好む様になります夫れて統計を見ても進んだ所は遅れた所よりも概して組合か多い農業よりも商工業の方が組合が多い否な農業には未だ會社と云ふものがない併し農業にも將來會社が起らぬ

と斷言は出来ない否な農業會社と云ふものが起つて來るであらう

閑話休題元に返て申しますと社會に生存する人間には社會性と云ふものと個人性といふものとの二ツの力か潜んで居る此二ツは一見反對の様であるが然し決して相容れぬものではない否な兩者一致してこそ最も其妙力を發揮することか出来るのである

○勞働本位

(水呑百姓)

○世の中は寶積み置く無盡藏

うれかほしくは働いてとれ、

○苦しみて後に樂こそ知らるなれ

苦勞知らずに樂の味なし、

(一)

古聖曰く「汝は額に汗して汝の食を求めよ」と。げに人間は生れなからに働くべき使命を有し、人間生活の一生を通じて全力を勞働に捧ぐべき本資及び義務を有し、限り有る一生の勞働に凱歌を奏するに及びては更に無限の愉快を持つて無限に勞働する、天の樂園に往生すべき運命が授かつてゐる、確

かに具備してゐるに違ひない、眼を閉ぢて視よ、自然は永久に吾等と共に働いて居るではないか、大自然は吾等に與ふるに耕作すべき土地を以てし吾等か播く所の凡ての種子をして生長せしめ成熟せしむるではないか、自然は人力を助けて食物を給し、又織るべき綿と羊毛を與へてゐる、而して吾等の決して忘るべからざるものは、貧富に論なく、飢渴を凌ぐもの、寒暑を避くべきもの及び上王侯の殿堂より下一走卒の小舎に至るまで、吾等の膝を容れる事の出来る所のものは、皆吾等の勞働の結果に外ならざる事である、

(二)

學者曰く勞働とは「生産のために人の心力及び体力の實現をいふ」と然り吾人か茲に勞働者といふは、單に筋骨を勞働するものを指すのではない、筋骨の勞働は牛馬も遙かに之を能くするか之れは眞の勞力者ではない、眞の勞働とは、吾人の筋骨と共に心力を働かしめ、又其筋骨は此高尚なる能力の影響に従ふものをいふのである、されば人の曰ふ如く精神的勞働と肉体的勞働との區別はない等と思ふ然るに我國では古くより勞働者又は職人として賤しめ、生産のため直接間接勞働に従事する者を下級者と認めてゐた、之れ故、今日でも未だ此習慣が残つてゐる、此思想は抜けきらぬ、うこそ勞働は神聖なりといふ、座せる紳士よりも立てる農夫を貴んだ國々と自ら趣きを異にしてゐるのに残念である氣の毒である、即ち吾人は出來得る限り、眞勞働の意義を一般に承知させる使命を有するものである、

既に吾人は労働とは生産のためにする身心の能力實現である事を承知した、されば健康なる人の労働は不健康の人の労働よりも其効果の大なるべく、又心の確定した意志の強固な人の労働は半信半疑にして意志薄弱の人々よりも、其成績の顯著なるは勿論である、恩師教へて曰く「心の動きを三ツに別けて智力徳力意力とする」と、智力乏しければ骨折損に終るべく、徳力薄ければ勞して効なき事あるべく、意思強固ならざれば挫折して晩年を見る事は出来ない、うれ故労働の効果を大ならしめ、生産収入を増さんと欲せば、是非其健康日を逐ふて旺んに、智力は時に従ひて進み、徳力は事に臨みて顯然として輝き、意志は百難を経るに従ふて強大する様常に心身の修養を怠らず、以て労働の眞價を向上發揚しなければならない。

(三)

人間は進化の發動機である、原始時代の民は農業の何たるを知らず、食料として種子を蒐集し其一部を割いて翌年の収獲に資する様になつたのは、比較的近代の事である、礦物の發見に尋いて之に火を應用し、金屬を得る事を知つて人類は非常に潤歩し始めた、

海濱の民は樹木を切つて、火て其一方に大なる穴を穿ち、うれて海上に乗り出て魚介を取つて食した、穴をあけた木はやかて鉄釘で結はれて端艇となり、船となり遂に汽船となり、世界の殖民と文

明とは之に依つて開かれた、

斯様に前代の民の貴重なる労働がなかつたらば、世は依然として進化する事なく文明に赴く事なかつたらう、吾人の先祖は土地を開墾し培養して人類必要の食糧を生ずる様になり、又器械の發明品物の製造をし而して吾人は其貴重な結果を收めた、祖先は技術と科學とを發見し吾人は其貴重な結果を相續したのである、誰か労働者の如く世の文明進化に力あるもの他にあらふか、吾等が進歩と呼び將た幸福と呼ぶものは、一として皆勉勵以てした労働に外ならない、されば労働のない進化かあらうか、發動機のない飛行器は飛はない様に、

(四)

労働は生産の母である、生産の要素を土地資本及労働の三ツに置く、然し土地は天然の一部であつて無盡藏である、人の模造は許されない、之を利用活用すれば何物でも出来ないものはない、即ち凡ての原料は土地の中から生れ産さなければ他に求められない、(人間は無より有を生ぜしめる力はないから)土地の中から生産するには、資本と労働を要する、然るに資本は労働の子供である、土地に労働すれば資本が出来るのである、例へば一石の米を作るにも土地と種子と肥料と農具と手間は要る此際種子と肥料と農具は、資本となり、手間は労働である、誰にだつて和解る如く米を作るには労働

か提供されないならば、米の出来様ない、資本は間に合せてあり、労働の子供である、それを世の人は生産の意義を間違えて、加工業や製造業と同一視して居るから、資本が魁する様になる、勿論今日の様に土地を買ふにも金、種子や器械を求めるにも金、労働と賃銀で自由になるから、一見資本の光りは眩しいのは尤もである、が然し生きた力は労働にある、資本は元來労働の結果物に外ならぬ、労働の力は滅亡しないが資本の滅亡が常にある、されは眞の生産は天然と労働に依つて成り、天然の利活用、力の根元は、労働其物の胎内にあるてはあるまいか、

(五)

労働は貯蓄の基である、近頃は経費の節減、支出の減少が流行し、貯蓄の奨励、保険の勧誘が盛んになつて來たか、残念な事には費用の區別と性質が明かでない爲に氣の毒の事が多いのである、

支出の種類には

- 一、生産費 二、家事費 三、公益費 四、負擔金 五、有害費の如くあり、これを區分して
- 一、必要費 生産、家事費、……、節約的也
- 二、有益費 公益費・負擔、……、分度的也
- 三、有害費 冗費、奢侈費等、……、禁止的也

と山崎先生は書かれてある（農家の經濟五〇頁以下參照）

今の世に所謂節約者は禁止的の有害費を節約し節約家は冗費や奢侈費を少なくせんと努むるのである、故に儉約の功値節約の難有さか明瞭になつて來ないのである、

或る農家に十八歳になる青年があつた、毎日でもないか農間農間に駄賃取して大分金を以てゐた、或時母が上納しなければ期日か遅れるので、息子に一時駄賃金の流用を頼んだ處か、息子は憤然として答へて曰く「利けた金ならいざ知らず背の皮脱いて取つた金を費われてたまるものか」と可憐相な息子には違ひないか、此青年の労働賃銀は堅い貯金の基である、融通のきかないにも恐入るか、或種の青年には粒々辛苦の収入を浪費即ち有害費に消費して後悔先きに立たずを慨くものはないかしら、殊に繭の賣つた後になど、

世界を文明にしたのは世界の貯蓄である、而して貯蓄は労働の結果である、而して文明の結果を蓄積したのは、實に労働者が始めてである、茲に前項の労働は資本を生じ、資本は労働の結果である事が明かになる、然り資本などは労働に依つて得た報酬の全額を消費しない人である事を忘れてはならぬ、

(六)

勞働は元氣の泉である、勞働は重荷であり懲罰であり而して同時に又名譽であり快樂であらねばならぬ勞働は殆ど貧乏の事の様だけれども、亦其中に光榮を有するものである、若し勞働するなくんば人は如何なるだらう、人生は如何なるだらう、人の偉大なるものは皆勞働から出来る、天才は唯激烈なる勞働を成し得る力あり、元氣あるのみである、故に勞働は一面懲罰の觀あるけれ共、一面實に光榮無上のものである、高尚なる目的を以て心勞する人や至純なる目的に對して突進するは内に溢れる元氣の迸りがあるではあるまいか、

勞働は又希望の焦点である、茲に有名な物語がある、或老農は臨終の床に怠惰なる三子を招きて曰く「我兒等よ予は汝等に遺し與ふる土地の中に一寶物を隠し置いたと」三人はこれを聞き異口同音に叫んで曰く「何處に隠されたか」老人曰く予は今汝等に語るべし汝等は之れを掘り出さるべからずとされと老人は其秘密を語る能はずして遂に死んだ、これより三子は自ら鋤鑿を取つて土地を耕し一匙の土をも余さない様に耕した、けれども寶物を發見する事出来なかつた、がこれがために彼等は勞働する事を學び、播きたる種子は能く熟して遂に收穫時になつて、耕作の完全であつたため豊饒なる稔りであつた、そして彼等は賢明なる老父の忠告を憶ひ出で、眞の隠れたる寶物を發見し得たこの事である、

人間は希望に生きるものである、希望の終つた曉は、生命の落ちる時である、希望の向上發展は、

勞働に依つて養われ進められるのである、希望を活かすのは勞働である、

(七)

以上書き續けた事を一言すれば勞働は生命なりと云われると思ふ、寔に勞働は人類の生命である試みに勞働を取り去り、勢力を没却せんか吾人は忽ちにして絶滅するは明かである、然るを世には吾人が生活する勞働の法則に不平不満を抱き悵々として架空を過ぎゆく人の多いのは何故であらう、憐むべき彼等は單に五感の慾情を充たさんとする以外に何の希望もないものである、ために彼等は不絶倦憊の狀態にあり、自己のためにも均しく用を爲し得ない妨害物である、嗚呼最も憐むべくして最も卑しむべきものは怠惰者の運命である哉、

全世界の人は絶叫して曰く「吾等を救ふ人は何處にあるか」と、されど甚だ遠きに其人を求むる勿れ彼れは汝の側にあり、其人こそは汝なれ我なれ、吾等各人である吾等若し自ら救ひ、他人を救ふ決心さへ起り心身の勞働さへ捧げなば、千万年億万年の昔より、腹のどん底にしつかり授けてある力は能くこれをなし得る耳である、此力を認め得る人は眞人である。

○東西兒童教育の比較

西洋の兒童は一般に無邪氣で天真流露の態度がある、日本の兒童によくある他人を見てはにがむと云ふ事は彼の地の兒童には全然無い事であるこれは育て方に原因するので衣食住萬事形式の末に拘泥せず日常の所作に於ても又は喜怒哀樂を表わする点に於てもこれが道徳上悪い事でない限りは何等の束縛も制肘もせず小言も言はないといふ育方であるから自然にのんびりと大様に順番に成長するのである動物でも小犬が雪中にころがつたり小猫が毯を追ひ廻はして戯れたりして居る姿は無邪氣な天真爛漫な点を遺憾なく現はして居る、兒童も亦然りて自然的態度を側から、ままた人工的裝飾であれこれと捻ぐらない方が餘程可愛らしく育つかしれん、それを日本の家庭では子供の中からなるべく小供らしい可愛らしい点を取除かうと勉めて居るよーに見える、

又日本の家庭では衣服が主か身体が主か一寸解らぬと惡口がいへるのである

兒童が外出する度毎に「着物を汚してはいけないよ」といふ偶々轉んだとかなんかで泥にでもしてかへることも一おまへには着物を着せないといつて叱る、だから兒童は衣服を汚すまいと云ふ心配の爲には遊戯運動に於ては活潑といふ事が非常に妨げられる西洋では兒童の衣服は單に輕便といふ事を主眼にして調製せられる様だ一寸野原に散歩に出かけても手當り次第に木の株があれば腰をかける芝草があれば寝轉ぶと云ふ有様で何の遠慮もいらぬこれが日本の兒童では前述の通りだから自由活潑敏捷といふ事がいかほど妨害されるか知れない衣服の仕立方でも西洋は實に堅固で丈夫である、

鬼ごつこに一寸袖を握られるもびり／＼綻る日本の仕立方とは全然違つてゐる

亦住居の状態からいふも西洋の兒童は幸福である大抵の家には小兒の室があつて雨や凡て外出の出来ない場合にも自分の室で各好む所の遊戯を自由にやる事が出来る日本では富豪の家でも兒童は自己の住居を有しない様な有様で雨で外出の出来ないとき西洋の兒童は自分の室で自由に遊んでゐるに日本では母の側で遊びを始めればうるさいと追ひやられ様先てやれば騒々しいおとなしくせよと叱られるおとなしくすることは誠に大切なことではあるが然し之が爲に兒童の自然的性能を矯めて不活潑ないぢけた捻くれた性質を植付けて仕舞ふのである遊戯は子供にとつては眞面目な事業である、大學の先生が其研究室に閉ぢ籠りて研究をしてゐるのと何等の差異はない花を摘むのは植物學の研究であるといふ風に遊戯は子供にとつて大切な事である、遊戯と云へば直に小言を連發するか如きは兒童の不幸のみならず國民的意志の養成の上に極めて弊害多きことである

家庭教育上の誤想を去りて換ふるに雄健にして活潑なる新頭腦を以てし其感化を兒童に及ぼさんことに努むべきである

○七福神の倫理的表象

昔天海僧正徳川家康の爲に七福神の圖を作りて開運の要件を示す其意匠は仁王護國經より出てたりとか今や俗間崇拜の對象となれり俗間の崇拜は自利に偏すると雖もこれを倫理的に見る時は七福各表示する所あつて頗る趣味あるを感す即ち

一、壽老神 南極老人星の化神にして壽命を司るの神とす或は云ふ壽老人は太上老君即ち老子名は聃の謂なりと其表示する所は壽命の長久にあり人生の福利身体の健全壽命の長久に過ぎたるはなし
二、大黒天 梵語摩訶伽羅といふ大黒天神經に「一切貧窮無福の衆生の爲に大福德を興へんか爲に今優婆塞の形を現す」と蓋し福利を表するものにして道歌に所謂「苦に病むな金は世間に預け置くこれか欲しくば働いて取れ」これ其教訓なり又曰七福の神は知足の二字にあり大黒天これを表示すと

三、福祿壽 支那道教の神にして福、祿、壽といふ天の三星にして人望を表示すと稱せらる財寶ありと雖も社會に疎んせらるゝ何の幸福あらん福に加ふるに徳あり財寶に添ふるに人望あり以て圓滿なるへし

四、恵比壽事代主命にして初めて商業を開かれしと傳へらる蓋しこれ清廉潔白を表示し誠實に正直の開運に必要なるを示したるものなり古俗大黒天を大國主命に配し事代主命との父子を福の神とす

五、辨財天 能興總持智恵集大辨財天といふ又宇賀神將といふ
經に一切衆生の爲に愛福を授け無上菩提に入らしむとあり同情を表示し愛の神たるを示したるに過ぎず

六、毘沙門 支那に多聞天と譯す其金の甲は惡魔の軍を除かんか爲にして足には藍婆、毘藍婆の二鬼を踏み手には寶珠と寶塔とを持つこは百難に克ち千苦を凌ぐの勇氣を示したるものなり

七、布袋 支那明州奉化別の人名を契此といひ自ら長汀子布袋和尚と号す、人の罵るものもあるも未曾て怒らず嘲るものもあるも未曾て意とせず蓋し忍耐強き大度量を表示したるものなり

これ俗間崇拜の七福神を以て衛生知足人理正直同情勇氣忍耐の必要を説くと爲すものにして七個の偶像を以て全く倫理的表象とす

或人歌あり

人みな的心一つにかしこくも

七つの福の神ゐますなり

と七福神の作爲者と稱せらるゝ天海僧正の意果して此にありや否やを知らずと雖もかく解して七福神も亦興趣あるにあらざるや古來社會の進運に貢獻せりといふ偉人の事蹟を考案するに何れも倫理的修養の結果に多ならざるか如く即ち智識の培養なり体力の健全なり知足勇氣忍耐等の諸徳を以て堅忍不拔

の意志を遂行するにあり正直人望同情等の美を以て共同生活を圓満ならしめんとするにあり謂ふ行所
ふ所多く七福神の表象と異なるを見す

○蠶種の風穴貯藏を勵行せよ

利根郡立農業講習所長 白石 延太郎

養蠶事業は蠶兒の飼育に付いて技術を要するは當然であるから、各々得意の方法に依り飼育を爲す
てはあるが、然し其の飼育に先ちて、最も注意を要すべきは蠶種の貯藏で有る、目下蠶業は漸く發達
して飼育法も改善を加へられ、種々巧妙なる方法に依り飼育を爲すと雖も、蠶種の貯藏を意に介せず
に居る人が往々あるが、之れは誤解の甚たしきものである、如何程飼育が巧妙でも如何に家屋が完全
して居ても如何に蚕病消毒を勵行されても、如何に蚕種を精選しても、蠶種の取扱いに注意を拂はず
にあつたら又た失敗の一原因と爲つて違謬するてあらふ固より蠶業熱心家は各自に其の注意は充分に
致してあるに相違無いが、未だ普く一般に用意周到と言ふ事が出来ぬ否一般どころか或る一部にも至
らぬか知れぬ、

蠶種の貯藏に付いて最も注意を要すべきは、冬季が一番必要の時季である、冬季は氣候が寒冷である
から隨て寒溫の變遷が少い事を各自に自覺して居る爲め、夫れ程に注意しないで居るが、時としこは

其時期中に於て或は春季催青の溫度の來る事か度々ある、又た催青溫度の五六十度か急變氷点以下に
降低して來ると云ふか如く、種々の變遷が往々あるのて、其期間に於ける注意が容易ならざるもので
ある、總て越年蠶種は冬季四十度以下の氣候に感觸せしめて、以后以上の溫度に接觸すれば自然に催
青を催始すべきものである、然るに冬季の氣候は一定度と看做して、是等の点に心付かず室内に掛け
放置して發蟻まで無頓着で居る人があるか、是等の蠶種は其注意不完全の爲めに遂に蠶種の健康を害
し甚しきは蚕卵の内容を軟弱ならしめ、又は發生するも發育不充分の悲況に陥るもので、實に氣の毒
なる次第である、斯る人は其の自身か蠶種の貯藏を誤り、變遷せる氣候に感せしめたる結果、蚕兒の
發育を不健康ならしめたる事を知らず、或は蚕種の製造家を罵詈して、其の罪を蠶種に囑し又は單に
飼育不熟練より來たるものと考へ違へを爲し、種々の妄想に過ぎて蠶室を改造し、飼育法を變換して
却て失敗する人か多いか、是等の弊害は須らく蠶種の風穴貯藏を勵行するが宜い、風穴貯藏庫は四季
の氣候を同一にし夏季と雖も四十一二度を昇らず殆ど穴内冬季の氣候を保持して夏多晝夜の差別なく
一定の溫度を保つて居るから貯藏中に於て催青を萌すか如き虞はない、殊に本郡には薄根村に石墨利
根風穴の如き完全なる風穴貯藏庫がある、此の貯藏庫の構造は天然の風穴を利用して地下一丈有余を
掘採し四面を石積とし其の上に二階立の土藏造りを立て、溫度の壓迫を防ぎ乾濕溫度の調和は常に
適順の度を保ち、實に完全無缺なる風穴貯藏庫である、本縣當局も度々視察を遂げられ、縣下第一を

以て賞揚せられつゝある、又た交通の便は利根林道其の下に通じ、沼田町よりは約一里の少巨離て、車馬の往來を便にしてあるから、入穴の往來殊に便利である、故に斯業家は多少に拘らず、風穴貯藏を勵行し、冬春期の経過を安全にし、催青に遺憾なき様遣つて貰ひたい、

又た現今は秋蠶種の生種貯藏と云ふ事か、大に行はれて來た、之れは秋蠶の二化種付を爲し、三四日目にして入穴し、發蟻の時期を遅延ならしめ、催青を抑壓するので、入穴して有る時間丈け、發生を遅延する事が出来る、夫れで其の發育の経過は却て普通生種より宜しい位で異狀はない、而し是れは入穴の時期如何に依つて違蠶者を生ずる事が有るから、第一入穴の時期に注意を拂はねば成らぬ、入穴の好時期は概して種付後三日以後四日目以内に限る、其の適度を経過して入穴すれば、蠶種に染色を呈して桃紅色となり、長時日を入穴して置く時は蠶卵の内容軟化して蟻の發生力を失ふ事か有る、故に入穴の時期に大に注意を要するのであるか、四日目を適度として入穴し、二三日にして出穴し催青せしむる時は蠶卵堅く緊り、普通生種の蠶兒より却て健全にして飼育を容易ならしむるのて有る、故に生種の風穴貯藏は秋蚕種製造家に最も必要である、思ふに本郡の秋蚕種は大概他郡市より五六日乃至十日間位發蟻期が早きに過ぎて居る、若し他郡市より注文等受けたる場合は、直ちに風穴貯藏庫へ入穴し時期を見計らいて出穴し、送種する時は種付の早晚に拘らず、如何なる時蠶地へも、飼育せしむる事が出来る、又た注文以外の蠶種を製造したる場合も、同じく入穴して置き、其の内に販路を

求むることか出來て、空しく貴重種の蠶種を發蟻せしめ、多大の損失を招くか如き事は出來ぬ、故に秋蠶種に付て風穴貯藏は必要なる事と思ふ、尙風穴貯藏の効果は多々有るか、先づ其大略を申し述べて諸氏の參考に供する次第であるから、何卒蠶種の貯藏に付き充分に注意せられ、遺憾なく一般に發業の効果を收められんことを希ふのである、

「續キ」

○製乳事業は畜牛界の要素

静岡縣田方郡北狩野村は、彼の有名なる修善寺温泉と相距ること僅に一里余の村落で、鉄道は東海道線三島町より南すること一時間大仁驛に着し、夫れより半里の地點に有つて、村内には既に三つの産業組合か有る、其の一つは、此の牧の郷なる部落に在る畜牛信用組合で有る、此の地方には初め畜牛業は余り盛んで無かつたか、三島町に花島某の煉乳所を設立して、此の地方の牛乳を需給すると、加へて三十七八年日露戰役後、一時に畜牛業勃興熱の影響を受けて、漸く村民中畜牛業を營む者か増加して來たので有る、

元來單調なる思想を抱ける農民は、或る事業が有利なりと聞けば、利害得失を精査せず、直ちに之を實行するの傾向は、何處も同じ事である、此の部落民も、戦後の畜牛熱に浮されて、田畑を賣拂つても、牛を購はんとする程度迄の、決斷者をも見るに至つた、然れども彼等は、折角無理算段を敢て

しても、或は牛馬商の奸商に欺かれたり、又は管理不行届の爲めに斃死したりして、損害を受けて、大に失望をした、人も多かつたので有る、此の時に方り此の村に、飯田庸雄と云ふ篤志家か有つて、意を産業に注ぎ、村民の幸福を計るかために、畜牛業の利益あるを認めて、茲に村民が見す／＼損失を招きつゝ有るは、其の方法の如何に依る事を知り、之を救はんとして先づ自分の懐中より出金して畜牛を購ひ來り、之を村民に年賦にて貸與したるに、村民の中には氏の好意に背き、却て直ちに其の牛を轉賣する者もあつたため、充分の成績を擧げる事を得なんだ、其處で氏は信用組合を設立して、畜牛購入資金を貸與し、之れにて各自に購入せしむれば、一は共同団体より借入たる資金故、不義理をなす者少なく、又一は自分の勘定にて求めたる牛故、大切に取扱ひ、且つ轉賣等の害も比較的少なからんと思ひて、爰に明治三十八年二月六日信用組合を組織された、

組合の狀況 本組合員は、元設立の當時は僅に十六名に過ぎなかつたか、其後ち段々に増加して、今では二十四名に達し、出資二十八名を有し、而して其の一口の金額は金五拾圓て有る、同組合の組合員と成る者は、總會の同意を経る様に規定せられて居る、之れ此の組合の普通組合とは、大に趣きを異にし、人選を嚴にする必要か有るからて有る

今左に設立當時より事實の概要を表示せん

年次	貸付金	貯金	借入金	積立金	剰余金	經費
三十八年度	九八八、〇〇〇	五七、〇〇〇	七八五、六六四	〇	四、四一八	二、〇〇〇
三十九年度	六八五、〇〇〇	六一、九七六	三三〇、〇〇〇	四、八六〇	三〇、五五七	三、一〇〇
四十年度	一、二八六、〇〇〇	四七五、二七五	三〇〇、〇〇〇	四二、三五七	三一、三六七	一、五〇〇
四十一年度	一、二〇二、〇〇〇	四〇九、四八五	八五、六〇七	七三、七二四	四八、六一〇	五、三〇〇
四十二年度	一、五五五、〇〇〇	六七六、三六〇	〇	一二、二六九	六三、〇一六	三、五〇〇
四十三年度	一、九〇四、五四五	六一三、〇九八	〇	一九九、〇六〇	九〇、一七五	〇、九〇〇
四十四年度	二、六二二、五四五	六九一、六四八	四八八、〇八〇	二八九、二三五	九六、一三五	〇、九〇〇

貸付金は全部擔保貸して、其擔保は全部畜牛である、是れは組合員か、畜牛購入資金を組合より借入れて、夫れに依つて畜牛を買入れても、一朝或る事情のために之を賣却するごか、又は牛馬商等の甘言に惑はされて、終に折角購入したる牛を賣却するものかある、組合にては、組合資金にて購入したるものは其債務を完済するまでは、其牛を擔保として、濫に賣却せしめぬ事にして有る、如斯して

組合の資金を以て買入れたる畜牛の頭数は、實に今日八十四頭の多きに達して居る、此の内に或は斃死し、又は交換したるものをも含んで居る、

同組合の經營は、極めて質素にして、成べく經費を少くし、其剰余金は全部積立てる事にして居る、故に組合長たる飯田庸雄氏の如きは、少なからざる費用を自ら負担してある、誠に前表の全組合毎年

の經營を見る時は自ら判明するのである、又四十四年度の損益計算を示せば左の如くてある、

利 益

貸付金利息 一九四、〇六五

損 失

借入金利息 三一、六〇〇

貯金利息 六五、四三〇
經 費 〇、九〇〇

計

一九四、〇六五

計

九七、九三〇

差引剰余金九拾六圓拾參錢五厘

即ち組合の剰餘金は、出金に對し六分九厘弱で、運轉資金の總額に對し三分四厘弱に當る、斯の如き比率は營利を目的とする會社銀行等に有りては、極めて低率とするも、出資金僅に千四百圓、運轉資金の總額にて漸く二千八百圓位の資金を運轉して、此の率を得たる、理事者其の人の功勞は、實に賞揚するに値するものである、更に其の經費を見る時は、其の額僅に九拾錢に過ぎず、之を以て見るも理事者其人の心掛けの一斑を窺ふに足るであらふ、

夫れて畜は全部牝牛で搾乳を目的として居る、冒頭にも述べた如く、此の地方にて産する牛乳は全部三島町の花島煉乳所で引取つて製乳するから、生産過剩を來すか如き憂はない、此村は從來牝牛は無かつたのだか、乳業の有利なると組合が設立した力に依つて、今日では乳牛が増加すると同時に

漸次知らず／＼の間に牛種の統一が實行せられて、村民の飼育する牛の種類は大概「ホルスタイン」種七割「エアシア」牛三割の比と云ふ状態である、近來に發展したる此の村の産業の一にして、全く故人の糟粕を嘗めざる、新事業として村民の誇つて居る處である、

其處で牛乳業の興りたる爲め、此の地の農民は絶えず定額の収入を見る事が出来るので、彼等の經濟状態は昔日の觀てはない、且つ有形上の効果のことでなく、亦た無形上の効果をも齎らして有る、即ち搾乳は頑丈なる指にて遣るのは充分でない、可成青年の柔軟なる指頭に依る方を可しとするので、総て青年の手を待つて居る、而して朝夕二回搾乳し、朝六時四十分大仁驛發の汽車便にて、三島町に輸送するのであるから、愚圖／＼欠伸をして居ては此の時間迄に搾乳する事が出来ない、故に知らず／＼の間に朝寢の弊を矯正して、延て夜間も早く寢に就く事が出来ないから、彼等青年に惡戯をして居る餘裕を興ふる事が無い、全く青年の風紀を改良して居るので、是の無形上の効果は甚大なるものである、

斯の如き畜牛の効果ある事を知らず、只單に目的の如何を認めずして、猥に悲觀するは、實に無謀の甚しき有る、吾人は畜牛界の爲めに將來益々發奮して、其の目的と基礎とを強固ならしめ本郡斯界の爲めに盡されん事を希望して止まず、些か参考までに、北狩野村の畜牛信用組合の現況を掲げて諸氏に照會した次第である、

○馬匹取扱心得

續キ

病傷の注意

人若し心地常ならず體に異狀を覺ゆる事あれば、口にて直ちに訴ふへきも、馬にありては病あるも夫れを人に告ぐる事を得ぬ、故に人か常に能く氣を付けてやらぬと病勢は進んで遂には取還しのつかぬ様な重態に陥るのである

健康な馬は常の如く飼喰ひも良く水も能く飲み、糞尿も變りなく、眼も明らかにして活潑に働らき、被毛は密にして且光澤があり、營養の狀況も良く、體の何處を見ても何等異狀ある事なく息づかい穩かてあつて、常歩すれば四肢の運び方は一樣に、又決して跌く等の事なく、速歩を爲さしむるも容易に汗を流し又勞れたような様子を見する事はない、厩に居る時に人の入り來るを見て臥て居ても起き上つて之を迎へ、立つて居れば人を顧み或は近づき來つて鼻翼を動かしなごする、呼吸は一分間に八乃至十二、脈搏は三十六體温は三十七度五分より三十八度の間を常とする、夫れを見るには、呼吸は鼻、脈搏は顎又は前膊の内面に於てし、體温は體温器を肛門に挿し入れて計るのである、

病馬の徴候として注意すべき事は病氣にも依るのであるか、一般に次に述べる様な異狀を呈するものは病馬と見ねばならぬ、先づ人が厩に入つても、倒れたまゝて臥て居り、立つて居ても頭を俛れて敢

て人を顧みようともしないて居り、或は火の如く光る眼で四方を見廻し、或は倒れながら轉るかりて肢を伸したり屈めたり等するもある、若く放牧中ならば、馬の群から獨り離れて、悄然として立ち、又は地上に倒れて居り等する、一般に飼喰も惡く水も欲しからず糞の塊が非常に少さく成つたり粘液を被つて居たり、悪い臭があつたり、又は下痢をする事もある、尿は或は増し或は減じ其色は甚だ澄み又甚だ赤くなる事もある、手入を嫌ひ又體に妙な臭かしたり、腫か出たり創か出來たりするのもある、眼から涙を流し、體は慄るへ頻りに腹部を顧み、或は後肢で腹を打つような事を爲たり等するもある、鼻液を多く漏したり涎を流したり咳嗽が續いたり等する、毛は蜩毛の如くに逆立つて艶か失せる息づかいは、苦しく體温は高くなる、營養惡くして著しく瘡せたり、又は反對に肥り過ぎる事もある、或は蹈臺の如くに四肢を蹈み張り、又は腹の下を縮めるもある、常歩させて見ると肢の運動は鈍く、或は四肢が一樣な運び方をしなかつたり、又理もなく跌きなどする、速歩をさせると容易に汗を流したり又直ちに疲勞の狀態を見せる、之等の事は即ち皆病馬たるの徴候である、

今左に普通起り易い病傷に關し、素人の心得へき概畧の事を説明して、馬主の參考に供し、以て夫れ等の病傷を豫防し成は又應急の處置をなすの注意を與へるのであるか、馬主たるものは之等の注意をなすと同時に、苟も其輕からざるを認めたる時は、必ず獸醫に就て其診斷治療を受くべきは勿論である、

疝痛とは總て腹のなかに故障が有つて痛みを起す病を謂ひ、馬が寒さに冒されたり、變敗した飼料を喰うたり、又は飼料の多きに過ぎた場合、或は過度の勞働、若くは飼與後直ちに劇しい勞役に使はれなせした時に起り易い、馬は之に罹ると悶え苦みて、前肢もて地を敲き、時々腹部を顧み、又は後肢を擧げて腹を打ち、頻りに尾を掉り、或は臥し或は起つ、病が一層劇しい時になると、馬は卒かに地に倒れて轉輾る、食欲は全く無くなり、全身若くは局部に汗を流し、呼吸は苦しく脉搏は速くなる、屢々糞や尿を爲ようとして然も終に快く夫れを遂げ得ない様子が見える、馬は此の病に斃るゝことも稀ならず、殊に罌丸の腫れたときは大事である、

疝痛と見たる時は、直ちに馬を廣い所に移して、多量の藁藁を敷き、且つ束藁で腹を摩つて便通を促すか、毛布で體を被うて靜かに牽運動を試みつゝ其倒れ臥せんとするを防ぎ、又便通を促すのである、

腺疫は幼馬に多く老馬には罕れなる傳染病で、新馬が急に土地氣候飼料などの變化などに逢うた時、殊に寒さの爲に胃され易く、また傳染に因て之に罹るものである初は鼻から水様の液を漏らす、夫れか日を経るはゞに灰白色となり終に黄綠色の膿のような液になる、食氣乏しく精神は稍鈍となり、咽喉や氣管が侵されて頻りに咳嗽が出て又呼吸や膈下が困難になり、或は腫の爲に喉頭が塞がれて斃るゝに至るものもある、

頸咽其他の淋巴腺は大に腫れて遂に膿と成つて外に敗れる惡性のものは内に敗るゝものもある、馬が此の病に罹つたならば糞便や藁藁等は燒き捨て、器具は燒き又は熱湯にて洗ひ、健馬とは離して且成るべく暖かく燥いた厩に入れ、毛布を被せ藁藁を多くし消化の容易な食物を與へるようにならねばならぬ、流行性感冒、胸疫等の傳染病並に鼻加答兒、喉頭炎、肺炎の如きは何れも腺疫に類似した病氣で有つて、注意すべきとも亦殆ど右に陳へたと同様である、

假性皮疽も又た傳染病である、初めは皮膚に豆乃至榛の實くらゐの大きさの珠腫を生じ、次で其の近傍に珠子の狀と索狀相違る腫瘍を形くり、終に皮膚の面に口を開くもので、多くは胸腹から四肢にかけて生じ、其簇り出るものは恰も菌茸が生へ出るに似て、遂には鼻孔内より咽喉氣管に及んで馬を斃すに至る、患馬は直ちに健馬と隔離して、獸醫の處置を求めると同時に、警察官又は市町村役場に届出ねばならぬ、

炭疽は馬の爲には恐るゝべき傳染病であつて、俄かに起つて何等素人に著しき徴候も示さずして直ちに馬を斃す、大抵は六時間以内に死するものである、故に流行地方に於ては傳染を受けしめざるに注意すべきは勿論、馬が若し何等著しい徴候を示さずして突然斃死するやうなことがあつたら、炭疽の疑を懷いて其の注意をしても良いくらいである、殊に此の病は、人間他の畜類にも傳染する劇烈の病氣であるから、速に患馬を隔離するは勿論、決して其體に觸れざるやうにし、又之に觸れたものにも接せ

ざるの注意が肝要である、獸醫に處置を乞ふと同時に屈出を爲すへきは勿論である、

繫腫は舉腫に起り又は寒濕が原因となるもので、殊に寒地では凍傷的に起る事あり、又肢を洗うて濕氣の拭ひ方が不充分なるに原因し、多くは舉腫と濕氣との二原因の合併で起るのである、秋冬に最も多い、若し原因が寒濕の爲であつたならば局部を成るべく滯らさないやうにし、殊に濡れた時寒風に當てぬやうに注意すると治つてくるし、舉腫の場合には装鐵法で治すことが出来る、兩原因の合併ならば兩方の注意が素より必要であるが概して装鉄の注意で全治するものが多いのである

膝輝は膝に、飛輝は飛節に起る、其性質は繫腫と全く同じく、從て注意すべき事項も同一である、月盲は初めは一方の眼に起つて馬は其の眼を開くことを嫌ひ、又頻りに涙を流す、結膜は甚だ紅くなつて眼球の前房にも亦異狀を生ずる、一二週間経つと夫が散つてしまふが又二三週乃至七八週間経つと再び其眼に發し、或は他方の一眼に同症を發する、散りては發する事再三再四にして、馬は遂に盲目となるのである、

骨脆症は骨を脆くし又軟らかならしめて全身の營養を不良にし、遂には馬の生命をも奪ふに至るもので、運動を不足にして良い飼料を充分に與へた馬に多く起る、其徴候としては馬は食慾を有し飼料亦充分なるに拘はらず更に肥滿の狀がなく、何等と云ふ患部も見えないのに跛行をする、鼻の兩側其他に腫が出来、糞には酸臭い香がある、此の徴候が見えたなら先づ草を充分に與へて、全然穀類を止め

殊に運動を行ふことが必要である、若し爲し得たならば放牧をすると、夫れだけで全治するものもあるが重いのは勿論獸醫に頼るの外は無い、ので注意を怠てはならぬ、

跛行は主に肢に病のある時の徴候で、或る部分が腫れたり其他外形に異狀ある場合は明瞭であるが、何の原因かが容易に分らぬ場合も亦少くない、大抵一方の前肢に跛行のある時には其肢を地に踏み着ける時に頭を高くし、他の肢の時には下げて重みを托する、後肢に在ても之と同様の景況が尻に見える、次には跛行ある肢を前に出すのに故障ありげに見えるときは、肢の上部にあるので、又回轉する時に疼痛のある様に見えるのは病か關節にある徴である、此の如くして、畧ぼ患部の位置が分つたならば、對側の肢に同じ部分と比較をして見て、疼痛や熱や腫張等の有無をも検査する、放牧馬に在つては、蹄の下面に踏創等を生ずるとあるから、その注意も肝要である、總て跛行あるときは其原因となつてゐるものを除き去り、使役を止め診斷を請ふ等相當の處置を爲ねば成らぬのである (未完)

●森林火災と其警防

續き

第一 可燃燒物

地表火の猛烈なる否とは主として森林内に於ける乾燥物の多少によるものにして數年に亘り落葉の堆積せる場合よりも其の火勢は一層猛烈なるものなり而して堆積物の量は大形の樹葉と廣冠を有する

樹種の森林に於て最も多し例令は「ネーブル」及「レットオーク」は「アッシュ」又は「バーチ」に比して多量の堆積物を作り「ホアイトバイン」は「ビッチバイン」よりも林内の堆積物を多からしむ

火勢は樹種の性質により異り軟木類の脂油に富む樹葉は硬木類の樹葉に比し其の燃焼力をして速かに且つ猛烈ならしむ又林内に存在する乾燥木材の多少は其の火勢に著しき影響を有するは論を俟たざる所にして多數の轉例せる枯損木ある森林に於て火災の危険多きとはロッキーマウンテンに於ける「ロッチボー」林の能く之れを證明する所なり又往時の造林法によれば除去したる頭木又は木屑を林内に遺棄せるが故に之等の物質は直に乾燥して容易に燃焼すへし

森林内の落葉其他の堆積物のよく乾燥せると否とは火勢に至大の影響を及ぼすものにして全く乾燥せるときは火勢猛烈なるへしと雖も僅かに一部分乾燥せる場合は火勢緩漫にして堆積物も亦全く焼失するとなし是を以て通常之等の堆積物は斑らに散布して地表火の燃焼を不齊ならしむるものとす、以上の外土壤の濕潤せると否とも亦地表火の延焼を不齊ならしむべき原因の一なり

第二 地勢

山腹に於て火災を生したるときは熱したる氣流は火災を上方に扇送するか故に火災は極めて迅速なる速度を以て山上に延焼し若し堆積物一様に存在するときには火災の上方に延焼する速度は山腹の傾斜度と正比例をなし傾斜甚しければ延焼の速度は愈々大なり而して山腹に達したる後は更に他の山側に移り極めて緩漫に下方に向ひて延焼す

峻烈なる障壁、土壘又は地上に突出せる隆起物等の如き機械的の障礙物は總て火災の延焼を遮斷し集中せんとする火勢を防止すへしと雖も、廣潤なる平地に於ては偉大なる火勢を集中すると得るか故其の被害の程度も亦起伏常なき地勢に於ける場合に比し激長にして且つ大面積に亘り延焼すへきものなり

第三 土壤の性質

乾燥し易き土壤は火勢を猛烈ならしむるへし即ち砂地又は石灰質の土壤の如く容易に熱し速かに乾燥するものは其の火勢をして一層盛ならしむるものなり又山岳の南側若くは西側に於て起りたる火災か他の側面に於て起りたる場合よりも一層猛烈なるは此等の側面にありては其土壤温緩にして乾燥せるが爲なり

第四 空氣の情態

森林火災は又空氣の情態に依りて影響せらるゝものなり換言せば風の速度大なるに従ひて延焼の度を速かならしめ間斷なく風の存在するときには一時暴風の起れる場合よりも其の火勢を一層大ならしめ漸次風力を増加して遂に暴風となる場合は火勢を最も猛烈ならしむへし又大空の乾燥せるときは火災は最も猛烈なるものなり是を以て日中にありては最も暖くして乾燥せる風の吹く時に於て火勢最も激し

之に反して温潤せる空氣は火勢を衰退せしむるものにして火災の消防が夜間を以て好時期となすは是れ夜間は通常氣流少なきか又は全く静止して大氣は比較的重く且濕潤せるか爲なり

第五 地表火の速度

地表火の燃焼する速度は火災地に於ける種々事情の異なるに従ひ著しく差違あるか故に豫め之を推定すると難く東部地方の硬木生育地に於ては地表火は稀に一日五哩以上に燃焼するとあるに反して西部地方の針葉樹林に於ては其の速度は往々前者の二倍に達するとあり

第六 雜草地之火災

疎生の森林に於ては大概ね雜草繁茂し乾燥季に於ては之れが爲め火災を生じ易し是を以て雜草を森林に繁茂せしむるとは地表火に關する重要な問題の一にして南部地方に於ける森林に於て殊に然りとす丈高き雜草は矮小なるものに比して其の火力優勢なるも延焼の速度は却て遅きものなり雜草の高さ一呎にして密生せるときは往々樹冠火を誘致するとあり又矮小の雜草にして恒風の場合には火災の速度は一時間に三哩乃至四哩の速度を以て延焼し強風のときは其の速度之れに倍するを例とす雜草地之火災を大ならしむる重なる素因は雜草の乾燥と風力にして其他の素因に付ては森林内に於ける堆積物の燃焼する場合と異なるとなし

第七 叢林地之火災

叢林は多く落葉すること遅く往々翌春迄枯葉枝梢に残存するものにして或る種の櫛樹殊に然りとす之等の叢林に於ける火災は大概ねその初地上の堆積物の燃焼せるものか機會を得て枝梢に残存する枯葉に移りたるものにして合衆國の東部地方に於て多く晩秋落葉の季節に於て起るを例とす通常樹冠火よりも寧ろ地表火の性質を有す

針葉樹の幼林に火災生じたるときはその枝葉を燃焼して忽ち之れを枯死せしむへく若しその樹木甚だ幼稚にして各孤立し樹冠未だ充分發達せざるときはその火災は尙ほ地表火の性質を有すと雖樹冠火少る達して相連續する時は純然たる樹冠火たるへし

叢林地に於ける火災の特例と見做すべきものは合衆國の西南部に於ける荆棘地帯の火災なり同地方に於ては多種異様の荆棘密生して一大荆棘帶を爲し其の他上には恰も密生林に於けるか如く落葉朽土等高く堆疊せるか故に一朝火災を生じたるときはその火勢の猛烈なること恰も密生せる針葉樹林に於ける火災の如し

以下次號

◎地方改良實例

盲目の身を以て難村を整理改善したる元愛媛縣温泉郡余土村長森恒太郎氏の事績を記して參考に供せん

飯田生

氏は余土村の産にして性頗る温良長するに及て町村自治に多大の趣味を有し將來大に村治に力を盡さんとせる矢先病に犯され惜むへし兩眼の明を失つたのであるが遂に明治三十一年盲目の身ながらも奮然村長の職を引受け爾來滿十年間粉骨碎身以て村の面目を一新したのである其の間の苦心たるや實に想像は出来ない氏は今は既に職を後進に譲つて老後を養ひつゝあるも人皆特殊なる氏の事績を賞讃しで措かず殊に自治經營者は氏の實話を懇望し現に各所よりの招聘多く氏も亦進んで之に應じ熱心實驗を試みられてゐる様である誠に自治体の爲に慶すべきところと思ふ茲に記さんとするは鳥取縣福井慶一氏に依つて世に廣く照會されたる森氏の講話の概要である

そこで氏の事績を記するに當ては先づ當時余土村の民風は如何なる状態であつたかを述べなければならぬ全体余土村は氏の就職當時に在つては頗る世の惡評を受け全く一の難村として目されて居たその原因は村民に自治の觀念が絶無である爲なることが根本をなして居たのである彼等は自治行政が已れに大切な利害關係を有するものであると云ふ様な考は更になく謂はゞ條例規則があるから仕方なく村の仕事をせねばならぬ様に思つて居る村の利益である或は地方公共の利益を増進せねばならぬと云ふ様な所謂村の仕事は已れの任務であるといふ自覺がない其れ計りてなく時には却て自治の事業を破壊すると云ふ沒常識漢が多かつたそうだ凡そ世に公共心のない者程厄介のものはない何事にも僅かの事に徒らに屁理屈を付けて物爭をするそれを余程好いことゝ心得て居る者がある自治の民として少く

受取れぬと思ふ斯云ふ者の居る村に限て村治は擧て居ないのである斯様な實例は諸所の町村に幾らもあるか茲には他の例を省くとしやう當時余土村に於ける其實例はこんな譯であつたそうだ丁度森氏の就職したる當時學校が狭くて教師の溜り席をも潰して教室に當て一つの腰掛に三人の生徒が掛けて居ると云ふ風て校舎の設備は頗る不完全であつた爲に數年前から學校建築豫算を村會で三度も決議されてあつたのであるが其後新築が出来ない金かないかと云へは金はないではない唯々學校の位置を爭ふためであつたのである然もその位置と云つたら僅か一町か二町である之を互に相争つて少くも譲らない斯うて數年も紛擾^{こた}ひて居たうだ實に馬鹿けた話である僅か此れ位のとて互に譲合へは既に立派な校舎は設備され多くの兒童の訓育上に利益を収め得たのであるけれ共此大切の事を顧みないで僅か二三町の爭をする是を以て如何に余土村の人達か屁理屈を好んで村を思はなかつたか判る而して余土村には屁理屈を云ふ者計りてなく暴權を主張して所謂神聖の權利を尊重しない者が多かつたのである例へば衆議院とか縣會とか郡會とか選舉があれば血眼になつて奔走する夫れは何か爲にするかと云へば選舉權の賣買である候補者間の相場を聞いて値の好い方に賣るか又は御馳走の好い方を選舉するといふ風て其品性は實に下劣であつた從て亦義務も重んじなかつたそうである土臺國民の最大義務である諸税を國税や縣税は期限通り納めるか村税にあつては後に廻して仲々納めない夫れを能く訓へて見ると斯云ふ横着者は貧乏人には少ない却て中流以上の者に多かつたうである是等は畢竟村は大

切であると思ふ觀念がない結果であると思ふ選舉權の賣買などをする所は餘りあるを聞かないが役場の位置問題であるとか學校の敷地問題であるとかいふと往々紛擾を生じて他村の物笑を招く様な村も少なくない様である自治体として斯様の事を外に聞かせるのは誠に恥かしい次第であると思ふ利根郡なすも若し將來こんな問題が起たなら大事に至らない内に早く方を付けなければならぬ火事も小火の内に揉み消せば大事に至らない極内で済む夫れを自儘に火饅を擧げさせれば遂に取返の付かない事になつて世間を騒かせ従て粗忽者とか何と云はれて人に笑はれる譯になると同理注意すべきである

尙ほ序に一言して置きたいのは納税のとである國稅縣稅を重んじて期日に納め村稅を放擲して置くは獨り余土村のみではない利根郡なすも未だ此弊風がぬけない様に思はれる是れについて此間も一寸耳にしたのであるか相當の地位に居る滯納者であつて曰く自分は村稅は滯納して居るも其代り村に寄付金をしたから同じとたと云つたものがあるうた寄付と納税とを混同してはいけない納税は云ふ迄もなく國民の最大義務であつて寄付はする者の任意で村の方は決して請求はしない此人の考は大した間違である要するに納税は三種の別なく其義務を果さなければならぬ

又余土村は風俗經濟の上から云つても誠に奢り贅澤で美味いものは食ひたがり良いものは着たがり而て働くことを嫌がる勞働を嫌ふの結果は農業を厭ふ様になる青年は段々百姓が嫌になり高等小學でも卒

業すると直ぐえらい者になつた様な氣になつて役場の書記とか郡役所の雇とか或は代用教員にてもなりたいといふ風で祖先傳來の農業を棄て、他の骨の折れない職業を求むるといふ傾向であつた又地主は地主で人の賃銀が高いから引き合はぬと云つて粗惡の田地を人に作らせる小作人も嫌ふか之を作らぬは他のよい田地を作らせぬといふ風で誠に矛盾したことを地主が遣るうれば何故かといふに地主そのものか既に働くことを嫌がり自分は毎日遊んで居様といふ量見てある詰り先達者か斯様な風であるから中等以下のものは皆之に倣て鋤鋤か土に立たぬ様になる斯くして村の風俗が勞働を厭ふの結果經濟は益々遣り切れなくなる從て犯罪人も出來るといふ始末で惡評判の來れる所以のものは全く此處にあつた

森氏は實に如斯き有様なる余土村の牛耳をとると成つたのである氏は如何にして此難村を改善したか先づ第一着歩としてその根本とも謂ふべき人心の改善に全力を傾けたのである是れ實に十年間に於ける氏の偉大なる事業であつた而して氏は人心の改善は教育にありとし此点に最も力を注いだのである總て地方の發展を期するには教育の力に頼まなければならぬ氏は教育を三つに區別し即ち小學校教育青年教育社會教育とした・而して余土村は氏の爲に社會教育を以て、今日あらしめたと云つてよい社會教育は地方全体の人々に關係を有する一つの仕事を遣る而して此仕事を教育の意味に於て行ふのである所謂實行の裡に善い心を築き上げて行くのである吾々日常の仕事或は仕事に陥らず總て社會

育てある百萬の言葉よりも實行のいか餘程大なる力を以て居るとは争はれない凡て物事は形式的では駄目だ何事も形式に傾くものはとうしても崩れ易い敗れ易い氏は先づ一つの仕事の上から村の人々に自治的觀念を吹込せるとか最も急要なりとし其仕事に依て漸次に感化させる様な方針を採たのであるけれ共一般の人々をして直に感化誘導するといふとは甚だ困難のとてある故に先以て村内有力者の頭から直して行つて段々一般改善を期したのであるけれ共如何せん久しき習慣は意の如くならず爲に民を苦めたことは實に非常のものであつた

本村の民風は既に述べしところなるも當時一般村民の自治に對する觀念はそも如何なるものであつたかを述べて見たいと思ふ

村で財産家と言はれる勢力のある人々は村の世話なそは一向構はない議員になつても出て來ない委員區長等になつても名許りて更に活動しない村の事をすれば損かゆくといふ様な考へて居る却て吾は財産家である戸數割を五十人前も百人前も納めて居るのであるといふ様な譯で戸數割でも澤山納めると村の人を助けてやつた様な考へて居る實に話にならない村はどうしても有力の先へ立つ人か色々の世話を焼いて呉れなければ圓満に發達はして行かない余土村の如きでは困たものである又貧乏人は貧乏人て財産家に壓迫されて立つ瀬かない其結果人情は非常に輕薄となつて紙の如く總て日常の行爲は徳義を失ひ村に對しては滯納するのを何とも思はないと云ふ風で如斯上下共同の美風を欠き教育は形式に

走り勸業は日に月に衰へるといふ有様で自治体は全く有名無實であつた氏は茲に於て此利害關係の最も廣る地主と小作との共通の利害を知らせ又共同一致の精神を養はしめんか爲小作保護の實行を企圖したのであるけれども之を實行するには第一に元手がなければならぬその元手を拵へるために村で田畑を持て居るものに一段に付て米一升づゝ出して貰ふ計畫を立てた處が氏は自らて車を引ぬたり棒を擔ぬたりして歩くことは出來なぬ如何にして其米を集めんかと苦心した結果一斗許り入る袋を作りそれに「小作保護」と大書して之を首に掛けて出ることにしたのである爲に此の苦心を知らざる人々は一に氏を狂人視して村長の職より氏を除かんとするの聲は村内至る處に起つたけれも氏は之に屈せず鞋を穿き杖に縋て奮闘したのである而してその集める處の量は一段一升なるか故に例へば十町を有する家で一度に出して貰ふとすれば一石であるから多く出す家には幾度も通はなければならぬと云ふ風で大變永く掛る氏は何とかして早く之を完了を期さんとし晝夜間斷なく出て食事の如きは立て済ませると云ふ有様で殆んど休む暇かない然も其時期は小作米の出來た後であるから季候が非常に寒い雪は降る氷は張ると云ふ頃で身は盲目の上日頃より病弱なる氏は之が爲足は水ぶくれになり身体は非常に疲れ二三の者より一時中止せよと進められたけれ共氏は答ふるに遣り掛けた仕事である例へ身は斃るゝも多數の小作人の爲吾か村の爲飽く迄遣り通すと云つて動かない氏の奮闘的精神には實に感ずべきではなぬか

氏の感化力は實に偉大のものである見よ遂には多數の地主なり青年なりが非常の同情を寄せる様になつて自から車を引き或は袋を擔いたりして助力し始めたその時の氏の喜びはどんなであつたらうか全く測り知ることは出来なかつたであらうと思ふ然し何處でもあること多數の人が賛成しても兎角一部の者の反對がある此時も自己の不必得は反省せずして氏に反對するものが十四人程あつた然も其連中は互に申合せて氏に對抗したのである氏は多數の人の同情心を認め目的半ば達した譯であるか此十四人の爲には非常の苦心をしたのであるその次第は紙面の都合に依つて次號に掲載することせん

●農家の副業として柿の加工法

(市町村雜誌掲載赤塚榮三郎氏談轉載)

日本到る處の山野、畦畔或は、庭内に、樹上累々として或は赤く或は黄に秋冬の景趣に味を添ふるものは柿である、

柿の日本に於ける分布は、實に廣い許りでなく、又日本特有のもので、歐米にあるのは日本から擴まつたもので、世界到る處「かき」と云ふ名稱で通ずる位である、その産額の如きは、大正元年度の農商務省の統計によると、樹數九百六十五萬餘株、收量四千七百〇六萬貫、此價格七百〇五萬八千餘圓と他に乾柿の生産額五百九拾四萬三千餘貫此の價格千三百八拾參萬六千餘圓に達し、日本の果實中の主

位を占めてゐる、此の如く日本に普遍的のもので、生産額の多き柿、は園藝の發達上決して閑却すべきものでなく、大に其加工法等の注意を拂ふ必要があると思ふ、

甘柿は生果として直ちに食卓に上し得るから、唯其栽培法、品種の選擇、及び貯蔵運送等に注意すればよゐか、柿の生産額の中て其過半を占めると思はるゝ澁柿は、如何しても之を調味加工しなくてはならぬ、然るに柿の加工品は價も高く且つ秋冬の農閑を利用して之に従事し得るか故に、農家の副業として好適のものである、實際上加工果實中の主位にあるは柿で將來に於ても製造加工に注意して、上等品を得るやうにすれば、内外の需要は増加すべきである、此の如く卑近で、容易で、然も價ある柿の製造加工は農家がその副業として注意を拂つてもよゐものと思ひ、茲に古來有名の産地たる岐阜廣島高知等の製造法を參照して柿の加工法を述べて見よう、

柿の加工の種類 柿の調理には、白柿、粕漬、柿皮菓子、柿羊羹、柿ジャム、柿ジュエリー、カキサンドウツチ、等種々あるか、之等は家庭の臺所か菓子屋で行ふもので、農家一般の副業として行ふべきは、白柿、串柿、巻柿、酢柿、等であらう

一、白柿製造法 白柿は俗に吊柿、古呂柿、枝柿、柿餅、柿花等とゐひ、外皮に白粉を被ふて以て白柿と稱せられ、柿の加工中最も大切のものである、

原料 白柿製造は用ふる柿の品種によりて乾燥に難易あり、又優劣がある、うれに、市場の好みもあ

るから、その品種の選擇に注意しなくてはならぬ。之に供用すべきは蜂屋、百目、御影丸、美濃柿等である、高知では大澁、稻山、(藝西)川端、津の山柿と云ふを用ひ、富山では、サンジャ柿、を賞用する、以上の中て、蜂屋は白柿の製造に最も適して居る、帝と果實との附着確實なるか故に、生果乾果共に取扱ひ易く、大果で通例五十匁六十匁位、肉質緻密で水分少きが故に、成品歩合多く、且つ其成品に少しの曇なく、透明で、色澤美しく風味高尚である、之に亞くは百目で、其形狀大に、甘味強く、外觀も美であるか、蜂屋の如く成品が透明鉛色にならぬで果心弱く、乾燥し難く、貯蔵に堪へぬ欠点がある美濃柿は乾燥し易く、色澤良好なるも弾力に乏しく、長き貯蔵に堪へぬ、のみならず果心弱く取扱ひ難い、御影丸は百目の一變種で百目の欠点なく、透明で優等品を製し得るか、未だ収量が比較的少なゐ、其他高知の大澁、藝西は大果で果肉緊まり良品種である、原料の販賣には、木賣、東賣の二つがある、木賣と云ふは、柿の木一本に對する願數と貫目とを見計りて、その代價を定むる法である、東賣りは、百個に付何貫目として、代價を定むるのである、岐阜の山縣郡地方では、生柿百顆(五貫目位)で二三圓の相場である是れ岐阜は柿の本場である用大に且つ高價なる故、原料従つて高価のであるが、他の地方では、一顆五匁以内の處が多く、一錢は高価である

採集 收穫の時期は品種により、氣候によりて、異なるか、果實充實して外皮橙黃色を帶ひ、光澤美し

く肉質は尚ほ堅くして澁味を帶ふる時即ち蜂屋では其葉全部將に紅葉せんとする時、百目ではその葉落ちて霜の二三回も降りて落葉の黒くなる、時である若し、採取早きに失く、未熟果を用ふると、乾燥中、肉質堅縮硬化し、色澤亦不可である、之に反して遲きに失すれば、果軟熟となり外形を損し屑物を多く出し劣等品となる、今收穫時期の一二例を擧げると次の如くである、

岐阜地方 十一月十日乃至十一月二十日

高知地方 十一月十日乃至十二月十日

富山地方 十月下旬乃至十一月上旬

採取するには蒂の部に 撞木形に小枝を存する様すれば繩に挟み、絲に吊るすに便である、採取取扱ひは、凡て果面に傷けぬようすべく傷むたものは其部分黒く硬化して成品を劣らしめ時に其部分より腐敗することがある、一人一日の採取の量は富山の例によると一千顆乃至二千顆である、

採取したものは、之を夜の仕事として老幼男女打集ふて剥皮するてある若し産果多く又は仕事の都合により一時に剥皮し能はぬときは、地面に果の蒂の部を下向けにして二尺位の高さに積み重ね蒔の類を被ひ尚ほ大氣の乾燥する節は少しく撒水する等、果肉の水分の蒸發を防げば十日位は保つことが出来る、

剥皮 切り出し小刀、或は剝力を用ふ先づ蒂の周囲より剥皮し始めて、丁寧に殘皮なき様しなければ

ならぬ若し殘皮があると、皮の附近の果肉を緊縮し、縮みか一樣に整はぬ計りてなく、手入の時に破損し易く、白柿となるも其部分に白粉を生ぜず、大に外觀を悪くす、剥皮は成べく薄いが多いが蒂部は多少厚く削ると其下部に存する外皮は剥ぎ易い一人一夜の工程は五六百乃至一千顆で熟練したものが剥刀を持つた儘で柿を旋轉し、剥皮する状態は、實に目醒しき早さである

●本年度の米作

利根郡農會

春來の氣温は例年に比して著るしく低く、六月中の地下一尺の平均温度は、三十八年度の二一、五一度に比して一九、八九度の低さを示したのみならず、氣温でも日照時間でも、三十八年に比して夫れ〇、七二度及二、六時間の低減を示してゐた、本農會は七月十六日附郡農一九號を以て種々注意事項を傳達し置いたか、灌漑水が泉か或は地下排水の悪い田地では坪刈初の二三合乃至七合位の處さへあつたのは寔に痛惜に堪えない次第である、

郡農會唯一の事業とも目すべき多穫競争會も甚敷不安の態で催した、其成績結果を見ると頗る案外なものがある、

第一 非常に懸隔の大なる事である、昨大正元年度の成績に比へると、最多量二升一合二勺に比し、二升八合を出し、昨年は二、一二升は二点なるに本年は十六点の多きに達した、昨年は二升以上の収

穫村數は六に比し本年は十ある、斯く収量の多きものゝ多きにかゝわらず、収量の少ないのも亦大且多いのである、例へば一升一合は昨年の最低量なるに本年は一升〇四勺を出し、一升一合以下は三点もある、

これによつて按ずるに、昨年度の風害(九月二十三日)は大影響であつたに、本年は氣温、地温、及日照時間の低減に基くのである、而して凶作の原因には多々あるとしても最も大原因は本年度の如き氣温、地温、日照時間の低減に因るのである、稻垣博士の稻作豊凶豫知新論にも専ら茲に基いて説明してゐるのである

茲に於て我等は大に顧みなければならぬのは、凶作に對する對策。でも云ふべき栽培法の研究である、即ち可成収獲量の平均を高め、而も此平均量の上下に余り大差ない様に努めたいと思ふ、

そこで茲には大体本年度多穫競争會の状況を掲載し併せて其成績に就き批評を述べて見様ふと思ふ

◎一表 町村別最高最低及平均収量表

(昨年度成績附記)

	最多 最少		出品点 平均	収量収較 等位	昨 年		平均	等位
	最多	最少			最多	最少		
沼田	二、二四	一、三〇	一、六四	五	一、七九	一、三一	一、五六	一二
利南	二、二〇	一、四〇	一、八二	一	二、〇〇	一、五三	一、七六	一
白澤	二、一八	一、三五	一、六四	五	一、七八	一、四〇	一、六四	六

東	一、六一	一、〇四	一、三四	一二	一、八〇	一、四五	一、六七	五
片品	一、六〇	一、六〇	一、六〇	七	一、八二	一、二五	一、六〇	九
川場	二、二〇	一、二五	一、六二	六	二、〇七	一、三一	一、六七	五
池田	二、八〇	一、三五	一、八二	一ハ	二、〇九	一、一〇	一、七一	三
薄根	二、一五	一、四五	一、八二	一イ	二、一二	一、一一	一、七五	二
古馬牧	一、六八	一、〇八	一、四三	一一	二、一二	一、三〇	一、五九	〇
水上	二、〇〇	一、五一	一、七七	三	一、九〇	一、四七	一、六三	七
桃野	一、九〇	一、五二	一、六五	四イ	一、八五	一、二七	一、六四	六
新治	一、八五	一、〇九	一、五一	一〇	一、八〇	一、二二	一、五一	三
川田	二、六八	一、四一	一、七八	二	二、〇〇	一、四二	一、七〇	四
久呂保	二、二〇	一、三〇	一、六五	四ロ	一、七二	一、五〇	一、六一	八
糸之瀬	一、九四	一、三〇	一、五九	八	一、九五	一、二五	一、六四	六
赤城根	二、四五	一、四〇	一、五三	九	一、五七	一、五七	一、五七	一
計	二、八〇	一、〇四	一、六七〇		二、一二	一、一一	一、六五弱	

これによつて昨年は防禦困難なる風害の災よりも本年度凶作の原因たる氣温地温及日照時の低減には餘程人工的防禦法がある事を認めざるは得ない。

これから稲の凶作に對する人工的防禦法とも稱すべきものを述べて見様ふ。

一 稲の特性。 元來稻は熱帶の産で極の先祖はお釋迦様と同じい邊の湿地に生れたらしいのであ

る、それ故に非常に寒い北海道邊は栽培されるやうになつた今日でも、必ず氣候の暖い事を忘れない、故に先づ成るべく此性に叶へるやうにしてやる事は第一である。

然るに熱帶産の稻が東北北海道の地にも出来るやうになつたに就いては考知しなければならぬ。それは熱帶の植物が出来るならば利根の山にも植へたいかうれば駄目だ、何百何千年後の後世でも駄目らしい然るに稻は二三千年て天竺から北海道に迄出来るやうなつたのは一つは吾人の先祖が稻を珍重し一生懸命に勤勞し、勤勞して得た成績と結果を次に貯蓄し、遺傳しては稻の性質を變化し改良して來た恩恵である。二つには稻は多くの植物中、最も周囲の境遇氣候に應化する特性を有してゐるお蔭である。それ故に吾人の勤勞を空しくするなく必ず相當の變化の報酬を與へた結果である。

されば吾人は此稻の特性を熟知し應用し、以て勤勞研究して利根郡で最も優良な多收な品種を變化新生せしむるやう次心し實行しなければならぬ。

二、品種、稻の品種程難多なる作物はない、これは稻の歴史は教へてゐるので、収量の多いもの、品質の優れたもの、熱帶に生育して二度の收穫を掲げるもの、寒地出來て稔るもの、宮崎縣では生育日數百九十余日のものと、東北では百八日位で成熟するものもあるやうに、これに依つて見ても吾等の望みか確立せしむる事が出来る、何となれば現代々稻を作つてゐながら、只に他府縣の變成した品種の輸入や他種子の惡變を幸して防いでゐる時代でないのである、どうしても此地で優良多收安全の新

種を選み出し作り出さなければならぬのである

本年の多収は愛國種に最も多いか、米質不良で危険が多い、陳場金光坊の如き優良種も二升以上の収獲は数点あり、東錦香早生の如きさへも格に二升以上も収れてゐる、これによつても人工的の作り方で随分収獲を恣にするとか出きるか誰にても収獲を恣にするとか出きる品種の作り出しが最も有益であり本望である、他日余白をかりて品種改良法を述べなるべく多くの方からは是非やつて見て戴きたいと思ふ

(以下次號)

●利根郡各町村勤儉貯蓄團體調

町村	團體數	加盟人員	郵便貯金	銀行貯金	其	他	計
沼田町	一四	八七三八	九一三圓	四、二七八圓	一、八〇一圓		六、九九二圓
利南村	一〇	四五九	一	四、七六九	五〇		四、八一九
白澤村	三	一二五	八九四	八〇〇	一		一、六九四
東村	一二	五〇三	一、八二一	一	一		一、八二一
片品村	三	七〇	一	二五五	一		二五五
川場村	四	三二六	五六四	四一八	一		九八二
池田村	六	二〇五	一	二〇一	四、四二七		四、六二八

薄根村	五	一〇〇七	四六五	四、一四四	一、一〇三		五、七一二
古馬牧村	六	一九六	三八七	三五七	一		七四四
水上村	六	三三四	三三二	一、五七四	四二〇		二、三二六
桃野村	一二	七四九	五二三	八二五	四、一〇九		五、四五七
新治村	二三	三九六	六〇一	六、七四八	一		七、三四九
川田村	一三	四三四	八三	二、四四一	二〇五		二、七二九
久呂保村	五	三五五	四七	九九八	二、九三五		三、九八〇
糸之瀬村	七	三七五	九六	二〇八九	一		一、一八五
赤城根村	二	三六	二〇四	二一	一		二二五
計	一三二	六四四三	六、九三〇	二八、九一八	一五、〇五〇		五〇、八九八

備考

- 一、本調査ハ十月末日現在なり
- 一、蓄積金額は圓以下四捨五入せり

●縣村稅納入歩合一覽

町村名	縣	調定額	收入額	收入歩合	村	調定額	收入額	收入歩合
沼田町		四、〇八九	二、一五七	五二、七五		二一、八四〇	一六、三三三	七一、五一

利南村	九四八	九二三	九七、三六	一〇、一〇二	八、八六五	八七、七五
白澤村	七〇四	六八二	九六、八七	五、三四三	五、一二二	九五、八六
東村	九四四	四九三	五二、二二	八、四六〇	六、三八四	七五、四六
片品村	九四四	九〇一	九五、四四	六、二五〇	六、二〇六	九九、二九
川場村	八三二	八三二	一〇〇、〇〇	六、二三〇	六、一八〇	九九、一九
池田村	七三六	七三二	九九、四五	七、四八四	七、四六五	九九、七四
薄根村	八八八	八八八	一〇〇、〇〇	六、九九二	六、九九二	一〇〇、〇〇
古馬牧村	八八九	八八四	九九、四三	六、一二七	六、一二七	一〇〇、〇〇
水上村	八〇九	七九七	九八、五一	五、四三三	五、一三九	九四、五八
桃野村	九七〇	九七〇	一〇〇、〇〇	八、六三五	八、六三五	一〇〇、〇〇
新治村	一、七二二	一、六七五	九七、二七	一四、五一九	一三、八一	九五、一二
川田村	九八六	九三八	九五、一三	一〇、〇六五	九、一五六	九〇、九六
久呂保村	六三六	六三一	九九、二一	三、六七八	三、四〇八	九二、六五
糸之瀬村	五五三	五三九	九七、四六	六、六一八	五、八一四	八七、八五
赤城根村	六一〇	五八九	九六、五五	二、九二五	二、〇三七	六〇、九六

備考

一、縣稅は大正二年度戸數割、營業稅、雜種稅、營業稅附加稅の各第二期分成績にして収入額は納期後三日迄の収入濟額なり

一、村稅は大正二年度分の十一月末日現在にして例月會計檢査表に依る
一、金額は縣稅村稅共圓位に止め以下四捨五入せり

●利根興農會主催品評會

利根興農會にては十月二十七日より三日間利根郡農事講習所に於て秋蠶繭及び園藝物の品評會を開けり此の期恰も麥播きの時節にて農家にとりては最も大切な期なれば自然出品も觀覽人も少なからんを顧慮せしも會場或は出品物の時期等の事情上此の期を選ひし所以なり今左に種類別出品点數及擬賞点數を記さん

種類	出品点數	一等	二等	三等	四等	等外
繭	一〇	一	二	三	四	
柿	一七		三	五	六	三
苹果	六	二	一	二	一	
栗	三		一	二		
甘藷	八	一	二	二	一	二
馬鈴薯	二九	三	二	四	一〇	七
午麥	一七	一	四	五	四	三
胡蘿蔔	一七	一	三	四	五	四

葡萄	一八	二	二	三	六	五
蕪菁	二			二		
菜類	二一	一	二	四	五	九
甘藍	一七	二	三	四	六	二
葱	八	一	一	一	四	一
トロ、薯	二					一
里芋	三	一	一			一
合計	一七八	一六	三一	四一	五二	三八

以上の外参考品として春秋蘿蔔粟稗南瓜等合せて二十二点の出品ありしなり

今左に右出品物の概評を試みん

葡萄は出品点数甚少なりしも彼此相比較し見るに何れも相等に優良なる者のみにして形状と云ひ葡萄光澤或は乾燥と云ひ甚しき優秀は認めざりき又重量も以前の者よりは多かりし然れども織度稍々細きの感あり是れ畢竟飼育上桑葉上の關係あらんも天候の然らしめし事の少からざること思考す

柿も亦出品点数意外に少なく爲めに優良なる者甚僅少なりき只澁柿の内に一二見るべき者ありしに過ぎざりき苹果は只六点の出品なりしも何れも品質形状良好なりき甘藷は出品数少なく且つ良質なる者亦少なかりき馬鈴薯は最も多く出品せられ從而良好なるものも多かりき大根は聖護院に優良のもの多

く練馬大根には巢の入りたるもの多く従つて良好なるもの甚稀なりき菜類の出品は概して良質なる者なりしも甘藍は殊に優良のもののみ出品せられたり

人参午旁及葱其他のものにも良質のもの少なからざりき今回に於ては概して出品点数は甚た僅少なりしも良質のもの多く劣等なるものゝ未だ少なかりしは喜ぶべき現象なり即ち蠶業及園藝思想の發達せし結果に外ならざるなり

今後に於ては尙一層優良なるものゝ多數出品せられんとを望むものなり

● 初冬の感

松 本 生

今年もあますどころわづかになつた春過ぎ夏去り秋が未たかと思ふ間も無く早や冬も師走半ばはなつた朔風膚をつんざくと云ふ時になつた世の人皆異口同音に寒い日／＼だ朝晩の寒いを恰も身も凍へんばかりたといふ時期それが現在の氣候だいに負け惜しみの者も時々寒いといふ慣弊を洩らさるを得ないのである

寒い此の頃の世間の有様は如何であらう

朝とく起きて麥の施肥に餘念もなく働いて居る精農もあるビクに飽饑寒飯等諸要具を入れて薪切り山林に急く者もある自轉車に打乗つて北風に向つて走る商人もある牛乳を擔つて行く乳屋もある工

場へ通ふ男女もあるそれ／＼已か生業に精出して働いて居るものが多いか中には朝はおそく起き恰も
まりのやうに多くの衣類を着ながらの上火の邊に何の考へもなく居る者も往々ある

日を見れば早晝間近くなつてゐるから百姓であれば麥の追肥も畑か霜解けて入るとか出きないから明
日にしやうまた明日にしやうと遂に追肥もやらずに終るのであるかゝる人に限つていさ収獲といふ時
になると甚お氣の毒の有様だ他の商人でも工業者であれ何人に限らずその報酬に變りはないか之も自
業自得で己むを得ないまかぬ種子は生へぬてつまり己の撒いた種子が悪ければ自然その實も良くな
いとは當然なとてある

あゝ今は農閑の時である休養の時である今の内に充分体を養つて居て來たるべき農繁の期を待つべき
であるさりとて只安閑としてなすともなくして暮すべき時では無いなすとも無く居たればとてうれて
決して体力の養生のできるものでもあるまい

充分の計画なくして繁忙の期に至るは恰も武裝もせず武器も持たずして戦場に向ふ様なものであるか
くして徒らによい種子よい結果を得んとするは愚の極みである

畢竟冬期農閑の節は体力の養生業務の計畫をなすべき最大切なる時期であることを自覺せねばならない
のである否多くの人は自覺しつゝある即ち農家は新炭の準備蠶室蠶具の修繕新調種々の業細工等をな
し又多數の學生には勲術の練習するあり夜學に通ふあり青年相集ふて名士の講演を聞くもあり農談會

を開くあり諸種の製作物を生産するありて各々此期を適當に有益に利用しつゝあるは誠に慶すべき現
象である

須く吾々生業にたづさはるもの益々奮勵し此の農閑の期を全部の人をして有益に使用せしめ後日に至
つて悔ゆること無からしめたさものである今年も既に過去に垂々としつるに際し諸君と共に此の冬の
期を送らんとを希望して止まざるものである
(十二月半は記す)

「座 右 銘」

- 一、至誠なるへし一時を糊塗する觀念を懷く勿れ
- 二、責任を重んずへし過失を他に嫁するの口實を思ふ勿れ
- 三、迅速なるへし遲疑滯滯は情弊の根基なり
- 四、正確なるへし正確ならざるものは失誤を招くへし
- 五、勤儉を主とすへし負債は奉公の身にありては至大の桎梏なり
- 六、其郷にありて金錢と女に手を出すへからず
- 七、人は畢竟奮闘すべきものなることを忘るへからず
- 八、口にすることは必ず實行せよ

九、自重自信敢て他言に依るへからず
十、人の所見を退くへからず

彙 報

●織物講習の状況

本郡に於ては副業奨励の爲十月七日より二十三日迄郡立農事講習所に於て染織講習會を開く講習生六十名外に講外生五十名講師として本縣工業技師塚越萬平氏其任に膺らる懇篤なる講師の指導と熱心なる講習生の授講とは遺憾なく製作品の上に顯はれ副業として裨益する所尠なからざるものありき

●馬糶市の状況

産牛馬組合に於ける本年度牛馬糶市は十月十三日より三日間沼田町に於て開かる其出場頭數牛五十七頭馬百二十八頭にして賣買價格の平均は馬參拾參圓五拾貳錢七厘牛拾八圓三拾八錢參厘最高價格馬八拾圓牛四十五圓最低價格馬二十圓牛四圓なりしと

●多穫競争會

利根郡農會に於ては農作物の増収を圖らんか爲本年に於ける水稻並に大豆の多穫競争會を催せり其出

品点數水稻百五拾四点大豆九拾九点にしてその成績逐年良好の域に向ひつゝありと

●乾柿製造講習會

本郡は柿の製産比較的多きにも拘らず其の製法宜しきを得ざる爲製産物として從來餘り其價值を認められざるは遺憾に付之か改良を圖らんか爲十一月十二日より十二月二十六日迄白澤薄根桃野三ヶ村に講習會場を設け山梨縣より斯業の専門家を聘して講話を請ひたる所何れも熱心に授講せるを以て利すること尠からざりき

●種牝馬及優良馬の検査

長野種馬所に於ては來年度本郡種付所に於て交尾せしむべき種牝馬検査を十二月十二日沼田町十二月十三日新治村に於て執行せり其受檢頭數二百七十二頭内合格頭數二百二十九頭なりき又之と同時に本縣に於ては郡内優良馬十三頭の検査をも併せ執行したり

●利根郡教育會總會

利根郡教育會にては十一月二十三日秋季總會を開き會長選舉並に教育功勞者の表彰を行ひ終つて坂本法學士及本縣師範學校教諭小林連氏の講話ありたり

●郡長の町村巡視

坂本郡長は左記日割により役場事務を巡視せられ一般事務につき訓示する處ありたり

九月二十四日 東村

十月二十二日 新治村

九月廿六日 片品村

十月廿九日 水上村

十月七日 白澤村

十一月十日 赤城根村

十月二十日 桃野村

●町村吏員の異動

十月 三日認可

東村長 小林寛一郎

十月 九日認可

久呂保村収入役 澤浦恒八

十二月六日辞職

池田村長 松井市藏

十二月廿日認可

池田村長 木村和五郎

▲前號正誤

前號に於て「納税に就て」の記事中未納額調に新治村國税未納額一一、七五〇を掲上したるは誤りに付茲に之を取消す

大正二年十二月廿八日印刷
大正二年十二月三十日發行

〔非賣品〕

發行人

利根郡長

坂本森一

編輯人

利根郡書記

飯田桃太郎

印刷人

群馬縣利根郡沼田町五百五拾七番地

(關改姓) 須田久吉

印刷所

全

啓文社

發行所

群馬縣利根郡役所